

1990年代以降、中国の高齢化が加速している。65歳以上の人口は、1990年の6,299万人から2000年8,111万人にまで増大し、人口全体の7.0%を占めている。2014年には、60歳以上の人口は万人2.12億人に増加し、人口全体の15.5%を占めている。2040年までに、全人口における65歳以上の高齢者の割合は20.0%を超えると予測されている。高齢者の生活満足度を改善するため、高齢者の生活満足度に有意な影響を与える要因を明らかにする必要がある。本稿では、個人属性、家庭におけるサポート体制、社会的なサポート体制に基づき、**社区养老**(社区养老とは、高齢者が家族介護を受けながら、社区の従業員に在宅介護を受ける介護の方式である。具体的に、高齢者の家を訪問することや、高齢者に日常的な在宅介護サービスを提供すること、及び、高齢者のためにコミュニティー活動を展開することなどの方式がある)に注目し、2011・2012年と2014年に実施された「中国高齢者健康長寿影響要因調査(Chinese Longitudinal Healthy Longevity Survey:以下は、CLHLS2011、CLHLS2014と略する)」の個票を用いて、プロビットモデルと順序プロビットモデルによる実証分析を行う。本稿の目的は、第1に、高齢者の主観的生活満足度に有意な影響を与える要因を見つけること；第2に、高齢者の主観的生活満足度の向上に資する科学的エビデンスを見出すことである。本稿が得た結果から、子どもからの経済援助、居住方式、年金保険の有無、医療保険の有無、受診の有無、コミュニティーによる日常的な介護サービスの有無、コミュニティー活動への参加の有無は高齢者の主観的生活満足度に有意な影響を与えることが分かった。こうした分析の結果により、年金保険の普及、医療資源の再分配、農村地域で医療施設の設立、医療費用の削減などの政策が高齢者の主観的生活満足度の向上に役立つと考えられる。また、高齢者に介護サービスを提供するときに、物理的介護サービスだけでなく、精神的介護サービスに留意する必要があるだろう。更に、積極的にコミュニティー活動を展開することにより、高齢者の文化や娯楽活動を豊かにし、人生の楽しみを増やすと同時に、高齢者間の交流を促進し、高齢者の生活満足度の改善に効果あると考えられる。